

## 第2号議案 2015年度事業報告

### (1) The 1st International Conference on Advanced Imaging

#### (兼：日本画像学会年次大会 通算 115 回)開催報告

大会組織委員長：半那純一，大会実行委員長：竹内達夫

2015年6月17日(水)～19日(金)の3日間、東京千代田区にある学術総合センター(一橋講堂)にて標記国際学会を開催した。

本国際会議は、2008年に開催した画像関連国際会議 Pan Pacific Imaging Conference 2008 (PPIC '08)の後継となる国際学会であり、今回は画像および映像技術に関係する学協会にも参加を呼びかけ、五つの学会(日本画像学会、日本印刷学会、日本写真学会、画像電子学会および映像情報メディア学会)が共同して主催する、広く画像技術分野を包含する大会となった。また日本画像学会、日本印刷学会、日本写真学会は本年度の各年次大会を兼ねて実施された。

本国際会議は、日本画像学会としては2013年に策定したVision55に基づく技術領域強化活動の一環として位置づけられており、その具体的施策として企画された。企画運営に関しては、2012年度に日本画像学会内にて国際会議企画推進委員会が設けられ、開催趣旨、スコープ案を検討するとともに共同開催候補学協会に協力を依頼した。2013年4月に同国際会議開催に賛同された上記5学会の代表者により国際会議初回会合がもたれ、以降順次、各学会委員による組織委員会、企画委員会、プログラム委員会、プログラムトラック委員会、実行委員会の組織化がなされ具体的準備活動が推進された。

本会議の名称は、開催趣旨「種々の目的に対して最適なイメージング技術を議論し、その高度化の方向性、さらに次世代のイメージングを支える材料技術について問題点を認識し、課題解決のための方策を抽出し、イメージング技術の新しい応用の拡がりを求めインキュベートに繋げる」をもとにThe 1st International Conference on Advanced Imaging(以下1st ICAI)と定められた。さらに関連学協会が協力して画像技術の価値を高めることを表現するために、第1回の会議副題として「Infinite Imaging Value Chain」を掲げることとなった。

取り扱う技術分野は何度かの議論の末、次の5分野(Track)とした。

- ・Track1: Digital Processing
- ・Track2: International Standardization and its Strategy
- ・Track3: Capture and Utilization of Image
- ・Track4: Imaging Material and Devices
- ・Track5: Printing and Fabrication

Track 毎に主担当学会を定め、日本画像学会はTrack4を担当し、招待講演者の選定・交渉、Session Chairの選任等、Trackの運営責任を担った。

本国際会議の構成は、基調講演、招待講演、一般講演[口頭発表およびInteractive発表(ポスター講演ならびに展示)]、本大会開催趣旨を具現化する企画としてのIncubation Session(大学における研究技術開発によって生まれたシーズを企業ニーズに結びつける場の提供)、および特別講演からなる。また会場ロビーでは画像技術関連企業による展示会が開催された。

基調講演に関しては、各Track(学会)から1名の講演者の推薦を受け全5件を設定した。ま

た、特別講演には五学会にも関連の深い青色 LED の研究者で 2014 年度ノーベル物理学賞を受賞された名古屋大学天野浩教授においでいただき ” Revolution of Display and Lighting by LEDs ” のタイトルにて講演いただいた。

国際会議初日(17 日)は、半那純一 1st ICAI 組織委員会委員長(東京工業大学)の Opening Remarks に始まり、同日午前中に基調講演が行われ Track1, 2, 3 に関わる最新技術や標準化の現状・動向を、以下のテーマにて講演いただいた。

T1K:”From Image Processing to Scene Understanding: Learning and Sharing Context for Holistic Image Analysis”, by Prof. Tsuhan Chen (Cornell University: U.S.A)

T2K:” Standardizing Emergent Innovations in Converging Areas of Technology”,  
by Dr. Tineke M. Egyedi  
(The Delft Institute for Research on Standardization :Netherlands)

T3K:” Image Quality and Material Appearance”, by Prof. James A. Ferwerda  
(Rochester Institute of Technology: U.S.A)

午後には五会場に分かれ、各 Track の一般講演(口頭発表)が一斉に開始された。標準化に関わる Track2 では、各学会からの代表者がパネリストとなったパネルディスカッションが ”Challenges in Standardization for Advanced Imaging”をテーマとして画像技術分野をまたがる標準化の課題・方向性・今後の期待等が討議された。なお、午後 17 時 20 分からは同会場にて(一社)日本画像学会第 58 回定時総会ならびに(一社)日本写真学会の定時社員総会が執り行われた。



会議二日目(18 日)は、Track4(日本画像学会担当)が担当した基調講演として、Philips Research(蘭)の Dr. Kars-Michiel H. Lenssen による T4K: ” E-Skin Technology and Its Application in Smart Windows ” と題する講演からスタートした。次いで前日に引き続き各トラックの一般講演(口頭発表)が午前午後にかけて実施された。並行して Interactive Session の口頭

発表(各 3 分)が A, B2 つのグループに分けて午前中に行われ、午後には A と B グループの各々半数ずつを今回の全 Track を網羅するように 2 グループに分けポスター会場にて 2 回に分けポスター発表が行われた。この Interactive Session では、Konica Minolta Outstanding Poster Award 4 件と、日本画像学会の Editor-in-Chief Award が 1 件選出され、同夕に開催されたレセプションの場で表彰された。この他に、3 日間にわたる口頭発表全体から Track 毎に 1 件 計 5 件の Best Paper Award が選出され、会期後表彰された。なお、表彰の対象となった論文・著者名は 1st ICAI の Website に掲載されており、他の情報と併せてご参照ください。

(<http://www.isj-imaging.org/event/ICAI2015/index.html>)

午後 5 時からは、天野先生による特別講演が行われ、300 名を超える多くの聴講者を迎え、青色 LED の研究開発にまつわる種々のエピソードをご紹介いただき、今後の展開についても大きな夢を語っていただきました。次いで 18 時より発表会場の一部を改装してレセプションが催され、天



野先生をはじめ講演者、聴講者の方々、展示会にて技術説明を行っていただいた方々、本国際会議の各委員・スタッフの方々など 200 名を超える方々にご参加いただき、大変な盛況を呈しました。この場を通じて、広く新たな人的ネットワークを築いていただけたと思います。

三日目(19日)の最終日の基調講演は、Chemnitz University (Germany)の Prof. Reinhard Bauman 氏による” Trends in Printed Electronics: Applications and Market Entry” の講演が行われ、次いで午後 5 時まで各トラックの一般講演(口頭発表)が行われ熱心な討議がそれぞれの会場にて行われた。併せて今回初の企画となる Incubation Session が設けられた。そこでは本国際会議開催前に各学会維持会員企業にアンケート調査した企業として興味のある



研究課題をベースに大学研究室に本 Session への参加を呼びかけ、11 研究室より最新研究テーマとその成果についてのポスター説明・現物展示を行っていただいた。多くの参加者であふれ盛況であった。また三日間を通じて会場ロビーでは、11 社(うち一社はドイツから)の技術展示が行われ、最新機器の技術説明・質疑応答に多くの方が熱心に加わっていました。

全体の総括として本国際会議の参加者は、講演者、招待者、聴講者を含め 487 名(うち有料参加者 415 名:日本画像学会員参加者は 145 名)でした。前回国際会議 Pan Pacific Imaging Conference '08 (PPIC'08)では同 501 名(456 名)でしたので動員数は若干減少となりました。海外からの来訪者は講演者を含めて 61 名でした。総報告件数は 193 件(基調講演 5 件、招待講演 40 件、一般報告 147 件、特別講演 1 件)であり、海外研究者による発表は 44 名と全体の 22.8%に達しました。PPIC'08 での総報告数は 130 件でしたので、大きくその数は増加しました。またその質も含めて本国際会議に対するアンケート集計の結果(回収率 38%)では、その総合満足度において期待以上および期待通りとする回答が 93%となりました。広く多面的に参加者の皆様の関心や興味に対応できたのではと思われまます。

ただし運営面では、学会文化、規模、国際学会運営経験など多くの面で異なった五学会が共同して主催すること自体が初めてのことであり、会議の目標設定、予算、論文募集、特別セッションの企画、会場割り振り等、多くの決めるべき事項に先例がなく各学会間での調整に委員の皆さんが奔走するというような御苦労をおかけしました。何とか無事に開催に漕ぎつけられたことに改めて感謝いたします。次回以降への大きな課題としては、一つに The 1st Conference と銘打ったように、まだ国際的な実績やそれによる知名度がなく、海外発表者数に関しては計画を満たしたが、海外からの聴講者数に関しては期待値以下であった。今後も定期的に開催の予定であり、次回には海外(特に欧州方面)研究者へのプロモーションを積極的に行う必要がある。第二に本国際会議の副題として“Infinite Imaging Value Chain”をかかげ、学会活動間に緊密なつながりがあることを、プログラム上ではそれなりの工夫を行ったが、充分アピールできたとは言いがたい。次回はより見える形で、画像技術(学会)の連携を表現できるよう工夫が必要と考えられる。第三に五つの会議室を使い五つの Track を並行して進行する形となったが、会場の広さに見合った Track の配置が適切であったとは言いがたい。次回の会場選択の際には今回の実績を考慮して会場選択、会場割り振りをお願いしたい。その他参加者の皆様には種々ご迷惑をおかけしたことがあると思いますので、是非とも今回の経験・反省を活かし企画運営をお願いしたい。

最後に本国際会議を運営するにあたってご協力をいただきました一橋講堂関係者の皆様、国際会議 組織/企画/プログラム/プログラムトラック/運営 各委員の皆様、座長の皆様、各学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。またコニカミノルタ科学技術振興財団様からは資金面での支援をいただきました。更に国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT) 様からは委託業務の形で同様資金面での多大な支援をいただきました。改めてお礼申し上げます。来年は通常の ICJ, また 4 年後には第 2 回 ICAI を予定しておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

The 1st International Conference on Advanced Imaging 事務局: 深瀬 康司  
プログラムは本稿後半に記載。

## (2) 総会

2015年 6月 17日 The 1st Conference on Advanced Imaging 開催初日に一橋会館 2F中会議室において第58回定時総会を開催した。2012年度からは出欠連絡と各議案の賛否投票についてはweb回答可能な会員にはハガキ送付を廃止したが今年度の個人会員の回答率は60.0%であった。回答率の推移は、2012年度63.6%、2013年度63%、2014年度59.0%で今年度は昨年同様であったが、web回答が締め切り直前でやっと定数をクリアするという状況であり、会員へのweb回答の更なる告知、回答の促進が必要であるとの認識を持った。

第58回総会は半那会長の挨拶の後、半那会長を議長に選出して議事に入り、以下の議案について提案と報告が行われ、委任状を含み大多数の賛成により承認された。

- ① 2015-16年度役員候補の承認 (第1号議案)
- ② 2014年度事業報告、同収支決算および監査報告の承認 (第2号議案、第3号議案)
- ③ 2015年度事業計画および同収支予算の報告 (第4号議案)

第58回定時総会の議案と議事録は、当学会ホームページからもご覧いただけます。

[http://www.isj-imaging.org/about\\_ISJ/assembly.html](http://www.isj-imaging.org/about_ISJ/assembly.html)

## (3) 2014年度 日本画像学会表彰

日本画像学会は選奨規定に則り、2014年度学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、名誉会員、フェロー、技術賞、技術研究賞、日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞の選考を行い、2015年 6月 17日開催の表彰式の席上で表彰と各賞の贈呈を行った。各受賞者は以下の通りである。

(敬称略) **掲載号: 日本画像学会誌, 第 54 巻, 第 4 号, (通巻第 216 号), pp. 343-354**

<功労賞 (第 21 回) 3 件>

阿部隆夫 (信州大学)  
緒方信康 (画像学会事務局)  
伊藤昇 (元コニカミノルタ株式会社)

<論文賞 (第 29 回) 1 件>

著 者: 坪井彩子、中村一希、小林範久 (千葉大学)  
論文名: 「電極形状が銀析出型 EC 素子の鏡面化特性に与える影響」  
掲載号: 日本画像学会誌, 第 53 巻, 第 4 号, (通巻第 210 号), pp. 265 - 271

<研究奨励賞(第22回)3件>

- ① 飯野裕明 (東京工業大学)  
「移動度  $10\text{cm}^2/\text{Vs}$  を超す多結晶有機トランジスタ材料の開発」  
Imaging Conference Japan 2014, B-23
- ② 安藤正登 (富士ゼロックス株式会社)  
「定着ニップ通過後の用紙カール量予測シミュレーション技術の構築」  
Imaging Conference Japan 2014, B-27
- ③ 楠見高史 (千葉大学)  
「電解生成デンドライト様銅ナノワイヤーをフィラーとする透明導電フィルムの形成」  
Imaging Conference Japan Fall 2014, pa-6

<会長特賞(第15回) 1件>

北岡義隆 (パナソニック株式会社)

<フェロー(第2回) 3件>

半那純一 (東京工業大学)  
小林範久 (千葉大学)  
長山智男 (株式会社リコー)

<技術賞(第25回) 3件>

- ① 技術:「インクジェットデジタル印刷機 JetPress720 シリーズの開発」  
富士フイルム株式会社 辰巳節次、中澤雄祐、井上義章、柳輝一、山野辺淳
- ② 技術:「ツイストボール型電子ペーパーの商品化」  
綜研化学株式会社 滝沢容一、大日本印刷株式会社 小林弘典
- ③ 技術:「高信頼ロングライフゼログラフィドラムユニットの開発」  
富士ゼロックス株式会社 新井和彦、中山信行、小笠原正、織田康弘、勅使川原亨

<日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞(第10回) 1件>

並木則和 (工学院大学)  
研究題目「オフィス機器からの超微粒子発生量評価」

#### (4) 年次大会(第116回研究討論会)

##### 「Imaging Conference JAPAN 2015 Fall Meeting」開催報告(関西委員会)

実行委員長: 金本成一

2015年11月19日(木)・20日(金)の両日に京都工芸繊維大学(京都 松ヶ崎)にて、関西委員会の企画・運営による Imaging Conference Japan 2015 Fall Meeting を開催しました。本年度は、画像関連学会連合会の第2回目の合同研究討論会として開催し、初日午前には、画像関連学会連合会による「3D デジタルイメージングの仮想空間と実空間」というテーマで、今後ますます仮想空間と実空間のボーダーが無くなっていくことが実感として感じられる、非常に興味深いディスカッションがなされました。午後は4画像関連学会合同のポスターセッションを行い、ポスター全47件(内画像学会10件)と多くの報告があり、非常に活発な議論がなされました。夕刻には基調講演として、立命館大学の北岡明佳先生による「画像と錯視」テーマで講演をいただきました。単に錯視の説明ではなく、理論的にベース色、面積、色、透過率、など順を追ってのお話であり、わかりやすい中にも驚きをもって画像を見せていただくことが

できました。

2日目は、4画像関連学会による口頭発表58件(内画像学会14件)の報告が、4会場に分かれて活発に行われました。画像学会では、口頭発表の中で「研究奨励賞」、「技術賞」、「KM研究奨励賞」の発表も行いました。昼休みには、昨年より行っている計測器展示機器メーカーによるお弁当付きの「ランチョンセミナー」を開催し、参加者に好評を得ていました。トータルの参加人数は、61名と低調ではありましたが、アンケートの結果を見る限り、非常に満足度が高いと言える結果で終えることができました。

関西での秋のイベントとしては今年初めて技術講習会を取りやめ、ICJを4画像学会合同大会として2日間開催しました。したがって、ポスター、オーラルともにボリュームがあり、特にポスターは活気があり盛り上がった報告会であったと思います。一方、画像学会としては集客に苦戦し、赤字運営となってしまったことが大きな反省点です。4学会合同大会としての2日開催によるメリットが出せず、これはポスターとオーラルが2日に分散したため1日参加を予定している参加者にとっては逆にデメリットになった可能性があります。来期に向かってもっといろいろなアイデアを取り入れ、集客アップの施策を考えてまいります。

尚、今回の受賞講演は以下の報告です。

○第28回論文賞

1. High-Resolution Measurement of Electrostatic Latent Image Formed on Photoconductor Using Electron Beam Probe 須原浩之氏 (株)リコー

2. ベイズ統計によるマルチバンドスキャン画像の波長・空間領域の同時復元  
井出亜里氏 京都大学

○第25回技術賞

1. インクジェットデジタル印刷機 JetPress720 シリーズの開発  
辰巳節次氏、他3名 富士フイルム(株)

2. ツイストボール型電子ペーパーの商品化 小林弘典氏、他2名 大日本印刷(株)

3. 高信頼ロングライフゼログラフィドラムユニットの開発  
新井和彦氏 富士ゼロックス(株)

○第9回日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研修奨励賞

有機・無機ハイブリッドにおける相分離構造を有する高分子微粒子の電子ペーパーへの応用  
藪博氏 東北大学

プログラムは本稿後半に記載。

## (5) 評議員会

2015年3月12日に東海大学校友会館(東京・霞が関)において開催し、2014年度事業報告、同財務報告、2015年度事業計画、同財務計画及びICAI2015概要説明と、それぞれの質疑応答を行った。

事業報告に関しては編集・技術・企画・コンファレンス・事業の各委員長からより詳細な説明を行った。

出席者は48名(評議員15名、顧問3名、役員他30名)で終了後、特別講演会、懇親会を行った。

## **(6) 理事会**

下記に示す日程で年間6回の理事会を開催し、学会運営・活性化に関する諸施策の審議、2014年度選奨、2015年度予算執行状況の確認、2016年度予算案の審議・承認等をおこなった。

### ・2015年

第1回：5月25日（月）午後3時～6時	霞会館
第2回：8月19日（水）午前10時～12時（午後：役員研修会）	霞会館
第3回：10月13日（火）午後3時～6時	霞会館
第4回：12月11日（金）午後3時～6時	霞会館

### ・2016年

第5回：2月18日（木）午後3時～6時	霞会館
第6回：3月8日（木）午後1時～3時	東海大学校友会館

2015年度の理事会活動で最も大きな比重を占めたものは、ICAIの開催ならびに画像関連学会連合会の2年目の活動の推進である。

特に2回目を迎える秋季合同大会の定着を図る上で、永年開催してきた秋の関西技術講習会を発展的に解消し、秋季大会において連合会発信による3Dタスクフォースが主催する新シンポジウムを立ち上げることを決めた。詳細は関西委員会の報告を参照されたい。

さらに一昨年の理事研修会において提案されたアクションの重要件であるコンファレンス委員会の再編について、コンファレンス委員長へ株式会社リコーの三矢氏に御就任いただき年次大会における開催企画の連続性を担保すべく活動を開始していただいた。

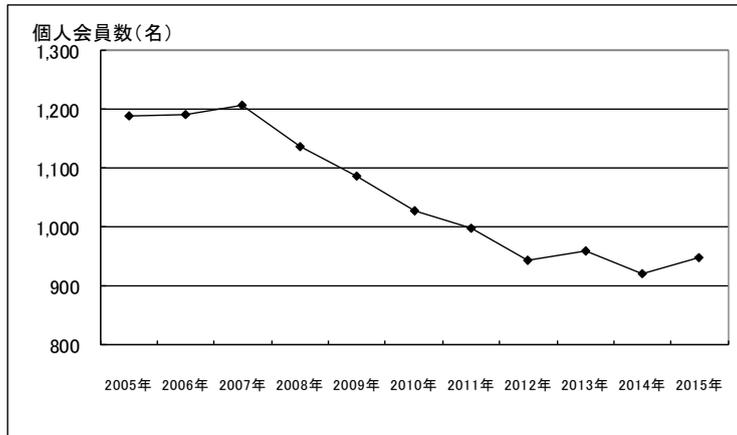
## **(7) 事務局報告 事務局長 山崎 弘**

- ・ イベント関連ではほぼ例年通り研究討論会、研究会、講習会、フリートーキング、イメージングカフェを開催した。ただ、秋の年次大会が連合会での2日間合同開催となったこともあり、関西での技術講習会については開催を見合わせた。イベントの開催回数20回、開催日数24日でイベント開催回数が1回減ったものの、総有料参加者数が前年を上回る結果となった。国際会議 ICAI での参加者、イメージングカフェ参加者の増が大きく、また、研究会の参加者も増加した。
- ・ 学会誌の発行部数は会員数の増減に連動し、毎号1450部前後である。年6回、編集委員会→印刷会社→発送会社経由で発行、配送されており、毎号、同梱チラシの配付先管理、日程管理及び会員の増減や住所変更への対応を図っている。
- ・ イベント参加登録のWeb経由システムは全ての研究会、研究討論会、講習会で実施しており少額参加費のイメージングカフェ（自動返信システム）とフリートーキングのみメールアドレスでの参加登録を行っている。
- ・ 理事会、各種委員会・部会の開催件数は年間100件以上で活発な議論が交わされている。画像関連学会連合会代議員会や国際会議（ICAI）でのプログラム委員会及び実行委員会、に加え、今年度では秋季年次大会の連合会合同開催にむけたプログラム委員会等が新たに追加された。

### ○年度別個人会員数の推移

2005年度～2015年度末までの会員数推移を示す。2008年から会員数の減少が続いている。ここ数年940名前後に落ち着いており、1,000名を回復できていない。

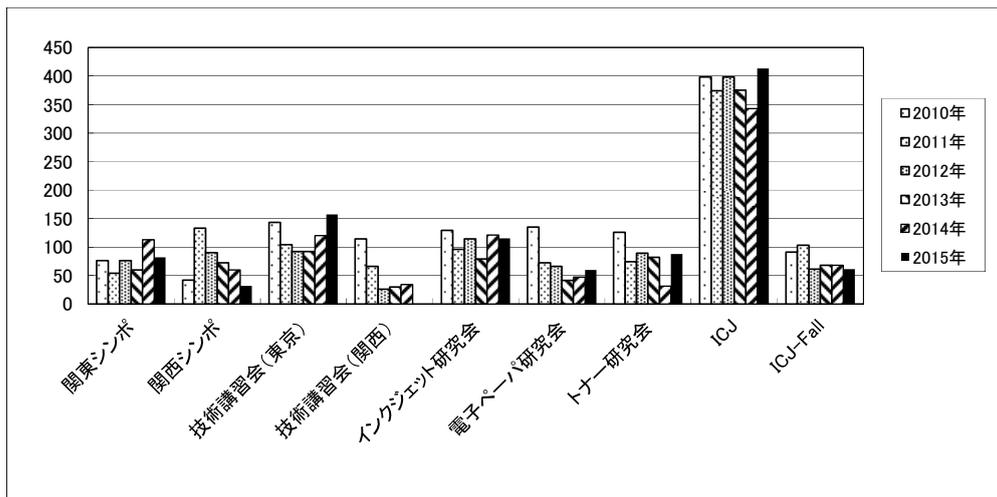
年度	個人会員数(名)
2005年	1,188
2006年	1,190
2007年	1,206
2008年	1,137
2009年	1,087
2010年	1,027
2011年	998
2012年	944
2013年	960
2014年	922
2015年	949



\*2015年度は12月末の正会員数

### ○学会の主なイベント参加者推移

2010年度～2015年度の当学会が主催する年次大会、研究会、講習会など、主なイベントの有料参加者推移を示す。主要イベントの有料参加者数は前年を若干上回ってきており、回復傾向がみられる。



### (8) 運営委員会 委員長 竹内達夫 (キヤノン)

運営委員会として例年通り学会活動の年間予定の作成、年6回の理事会の準備・議事進行・議事録作成、年次総会・評議員会の準備・運営など、本学会活動の運営全般を推進した。詳細は其々の報告をご参照されたい。この他に運営委員会が主導した2015年度の活動として、次の2点がある。

#### (1) 役員研修会

2015年8月19日(水)、霞会館にて役員研修会を開催した。昨年度までの研修会はVision55をベースに会勢拡大を主たる目的としてその施策について議論してきた。本年の研修会では学会会員の斬減という状態を受けて、本質に立ち返り原因の抽出と原因を排除する為の対策について議論を行った。

特に退会者が入会6年目を境にそれ以前が50%、それ以後が50%である分析を基に学会参加意義が失われる外的要因・内的要因への対応を議論した。

- ・研究者同士のつながり、社会的相互作用の維持
- ・研究知見を実務への普及促進
- ・ピアレビューを通じた論文査読と成果公開

等の価値向上を柱とし、さらなる具体的対策をアクションアイテムとして抽出した。

- ・上記のアクションアイテムは役員研修会当日にラップアップし、2015年10月13日第3回理事会から、その進捗を暫時報告することとした。

#### (2) 執行部会

画像関連学会連合会の活動について暫時執行部会を開催し理事会へ案の上程を図るとともに秋季大会の実行に対してバックアップ活動を行った。

### (9) 編集委員会 委員長 中山信行 (富士ゼロックス)

編集委員会を7回開催(うち1回は年間編集計画作成のため、京都にて合宿を実施)、フリートーキング“Imaging Today”を2回開催し、学会誌年6冊を定時発行した。毎年1回特定技術分野にテーマを絞って英文論文を掲載するクラスタ論文誌も4回目となり、本年度は218号で「分子・原子・材料シミュレーション最前線」をテーマとして、論文4編、解説7編を掲載した(解説1編は219号掲載)。論文数増加への効果も表れてきており、今後も継続して企画し、引用実績の増加にもつなげていく。

2013年度より、情報交換とコラボレーションなどを目的として開催している画像関連学会連合会編集委員長会議については、本年度は2015年5月18日、2015年11月20日の2回を開催した。11月の会議は、代議員との合同会議として開催し、学会誌合同化に向けて取り組んでいく方針を確認し、具体的施策として連合会HPに各学会誌統合indexページを設けることを決定した。また、2016年4月には、各学会誌が連携して2015年6月に開催したICAI (The 1st International Conference on Advanced Imaging) の特集を実施する予定である(発刊済)。

学会誌の新企画として、最近の画像に関わるハイライト的な話題を取り上げ、読み物として気軽に楽しみながら、さまざまな技術や手法を理解するコーナーとするべく、218号より「Imaging Highlight」を開始した。また、委員会活性化の新たな施策として、本年度から委員への委嘱状を発行した。

**213号 (Vol. 54, No. 1)** 2月刊, 101頁, 巻頭言(会長), 原著論文3件, 新年のご挨拶～画像関連学会連合会～, Imaging Today「画像技術の限界を探る —これまでの高画質化の歩みと今後の方向性—」, 教育講座「印刷工学の基礎 (VI) —孔版印刷・スクリーン印刷—」, 研究室訪問「鈴木・チツテリオ研究室慶應義塾大学理工学部応用化学科」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次, 画像閑話

**214号 (Vol. 54, No. 2)** 4月刊, 88頁, 原著論文3件, Imaging Today「画像を支える微粒子技術」, 教育講座「化学工学」, 研究室訪問「谷中研究室神奈川工科大学情報学部情報メディア学科」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・影像科学与光化学の目次, 画像閑話

**215号 (Vol. 54, No. 3)** 6月刊, 85頁, 原著論文2件, Advanced Technology「自己修復材料」, 教育講座「化学工学—移動現象論の基礎—」, 研究室訪問「本吉研究室東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系認知行動学教養学部統合自然科学科」, 会報, 会告, 正誤表, 投稿案内, 日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次, 画像閑話

**216号 (Vol. 54, No. 4)** 8月刊, 140頁, 原著論文2件, Imaging Today「3D プリント材料」, 教育講座「化学工学—次元解析とスケールアップ—」, 研究室訪問「岩崎仁研究室京都工芸繊維大学環境科学センター環境材料科学研究分野」, 2014年度学会表彰, 一般社団法人日本画像学会第58回定時総会資料, 会報, 会告, 正誤表, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次, 画像閑話

**217号 (Vol. 54, No. 5)** 10月刊, 109頁, 速報2件, Imaging Today「最新のオフィス用プリンタ/複写機の現状技術と今後の展望」, 教育講座「化学工学—反応工学の基礎—」, 研究室訪問「Arts & Science LAB. 東京藝術大学 COI 拠点:「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション拠点」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本印刷学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次, 画像閑話

**218号 (Vol. 54, No. 6)** 12月刊, 130頁, 原著論文1件, クラスタ論文“The Latest Technologies of Numerical Computation for Atomic-, Molecular-, and Material-Analyses,” 4 Invited Papers and 6 Invited Reviews, Imaging Highlight「リアリティ豊かな映像を目指して—高フレームレートとマイクロ立体視映像の魅力—」, 教育講座「化学工学—プロセスシステム工学と熱交換器ネットワークの設計—」, 研究室訪問「内川研究室東京工業大学大学院総合理工学研究科物理情報システム専攻」, 会報, 会告, 訂正, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次, 画像閑話

**第27回フリートーキング “Imaging Today”**「画像を支える微粒子技術」, 2015年7月24日(金)開催, 早稲田大学西早稲田キャンパス(新宿区), 参加者61名

**第28回フリートーキング “Imaging Today”**「最新のオフィス用プリンタ/複写機の現状技術と今後の展望」, 2016年1月29日(金)開催, 早稲田大学西早稲田キャンパス(新宿区), 参加者85名

## **(10) 技術委員会 委員長 面谷信 (東海大学)**

### 1. 技術委員会全体の活動状況

(ア) 2008年度よりの委員長 面谷信、副委員長 木村正利の体制を、2015年度も継続。

(イ) 2015年11月16日(月)に第1回主査会議を開催し、役員研修会で提起された技術委員会関連の課題等について議論を行った。2015年度は、2016年1月22日(金)(技術委員会総会と同日)に第2回目の主査会議を開催した。

- (ウ) 年一度の総会は、委員全員が顔を合わせ交流する場および各部会開催の機会として、2015年度は2016年1月22日(金)に開催した(総会出席回答者62名、情報交換会出席回答者58名)。総会に先だつて同日に9部会が開催された。
- (エ) 画像関係学会連合会と日本視覚学会との交流を深めるコラボレーションの可能性を探ることを目指し、1月22日に日本視覚学会との交流会「画像技術と視覚研究の交流と発展を目指す会」を技術委員会総会のスケジュールに挿入する形で開催し、日本画像学会を中心に画像関係連合会における視覚関連の研究事例6件を各発表者にご紹介いただいた。参加頂いた会長をはじめとする日本視覚学会会員(約20名)からは好意的な意見をいただき、今後も交流活動を継続して行くことになった。
- (オ) 2015年4月～2016年3月の間にシンポジウム1回(電子写真技術部会:12/4)、技術研究会3回[インクジェット技術部会:第124回(9/11)、トナー技術部会:第125回(10/9)、電子ペーパー/フレキシブル技術部会:第126回(10/20)]を開催した。
- (カ) 第79回技術講習会(7/16-17:東京)にて、①シミュレーション技術部会主導でシミュレーション実演講習(7/17終日)、②インクジェット技術部会主導でインクジェット基礎教育講座(7/17終日)を実施し、技術講習会の内容充実に貢献した。
- (キ) 画像処理関係の教科書について、プリント技術のための画像処理に焦点を当てた書籍を2017年のICJにおいて販売開始することを目標に、2015年度中の目次と執筆者案作成、2016年中の原稿作成を目途に出版に向けた本格検討を開始した。
- (ク) 選奨対象候補のエントリー数増加のために、技術委員会として各部会に積極的に候補抽出を督促し、技術賞、コニカミノルタ研究奨励賞、会長特賞の候補抽出に貢献した。
- (ケ) 電子ペーパー技術部会は守備範囲の拡大を意図して、今年度より電子ペーパー/フレキシブル技術部会と名称変更した。
- (コ) 技術委員会の各部会と一般会員とのつながりの強化を目指し会員に関心ある部会を選択して頂いてはどうかとの提案について主査会議において討議し、関心ある分野選択と、各部会活動自体に関して関心ある部会があれば選択の2階層に分けて希望調査する案等を中心に現実解を探ることとした。
- (サ) 部会の再編可能性として、画像評価部会の今後の活動に関して、テストチャート維持業務等について画像評価部会との合同活動の可能性等について議論を開始した。また活動の難しいイメージング材料部会の今後の進め方について改めて見直しを行うこととした。

## 2. 各部会の活動状況

### 1) 画像評価技術部会

- ・3回の部会(第182～184回)を開催、その内、第182回後、1/26 東大の本吉先生による「画像認識がどのようになされるのか」と題した画像感性部会との合同の勉強会に参加した。その後は積極的な部会活動が行えてなく、未だ具体的に画像感性部会との合同研究会開催には至っていない。第184回では今後の活動について新たな方向性は見い出せず、休会の案も出て検討中。

### 2) 電子写真技術部会

- ・定例会5回、シンポジウム企画会議を4回、研究室訪問を1回(京都造形大 大林先生)開催した。
- ・イメージングカフェ年末スペシャル(12月18日(金))「イメージング技術2015徹底討論」にて「電

子写真技術2015年とこれから」と題して、松代委員(リコー)が発表した。

- ・産総研 フレキシブルエレクトロニクス研究センターを訪問し、フレキシブル印刷デバイスに関する技術紹介とディスカッションを行った。
- ・日本画像学会シンポジウム「デジタル印刷のさらなる発展へ向けて」(12月4日、於:発明会館)を企画・開催した。

### 3) トナー技術部会

定例会議を5回、合宿会議と研究会を各1回開催した。

主な活動項目は、以下の3つである。

#### 3.1 最近のトナーの各種特性に関する調査

標準キャリアの活用事例とトナーの各種特性に関する情報を学会会員へ提供することを目的に、市販の各種トナーの物理的特性・材料的特性の測定と、標準キャリアを用いたトナーの帯電特性の測定を行い、その結果を研究会にて報告した。

#### 3.2 トナー関連技術の深耕につながる技術研究会の企画及び開催

「付加価値トナー関連技術、及び、最新トナー市場とトナー特性」をテーマとした研究会を企画し、7つの講演を集めて、10月9日に日本印刷会館にて開催した。

#### 3.3 「付加価値トナー&最近のトナー特性比較」に関する合宿研究会の開催

研究会の事前研究会として、元委員も含めた合宿研究会を行い、

「付加価値トナー」に関して、千葉大の星野先生に「金・銀光沢特性を持つ非金属材料」に関して講演していただいた。

### 4) 画像処理技術部会

- ・総会に付随した部会の開催だけで、活性化を図れず、ほとんど活動を行わなかった。
- ・画像処理関係の教科書については、進め切れていないが、2016年度は出版に向け、的を絞って進めていく。また、そのために若手の参加を募り、活性化を図っていく。
- ・従来、われわれが対象とした画像処理の分野(紙への再現のための画像処理)は成熟しつつあり、新たな方向性を考える必要がある。教科書出版に向けた作業を進めながら、この方向についても検討していく。

### 5) 画像技術用語部会

- ・「画像技術用語集」の継続的な改訂作業として、現行用語の改訂および新規用語の提案・抽出、それらの編集作業を中心に活動した。
- ・「画像技術用語集 Web版(一般公開版)」の随時更新を行った。
- ・「画像技術用語集 Web版(会員様向け)」の正式公開に向け準備を進めている

### 6) インクジェット技術部会

- ・部会会合を6回開催した(2016年1月末時点)。
- ・『インクジェットヘッド、これまでの5年、これからの5年』- 多様化に向かって新たな課題に挑むインクジェット - というテーマで9/11に発明会館ホールで技術研究会を開催した。2010年にもヘッド特集をしているが、そこからの市場変化と、それに対応するプリントヘッドの進化について7講演を行い、そのうち4講演を部会メンバーで担当した。参加人数(講演者、実行委員除く)は115名であった。産業向けに技術開発がシフトしてきており、生産性向上、信頼性確保がより重要課題になっており、ラインヘッドやインク循環システムがその対応策として広く用いられるようになってきている。また、講演終了後、同じテーマで会場の参加者間で座談会を実施し、意見を交換した。
- ・7月の技術講習会(東京)において、基礎編(初日)で2008年に出版した書籍「インクジェ

ット」の内容に沿い、著者が講師となったインクジェット基礎講座を終日担当した。また応用編(2日目)では、インクジェット技術部会から提案した2つのテーマ、「3Dプリンタ概論」と「オフィス向けインクジェット」についても講師を担当した。2016年度も同じ体制で開催したいと思う。

- ・ Imaging Café の年末スペシャル(12/18)において、2015年度のインクジェットの新品、技術動向をまとめて発表した。発表内容は学会誌4月号に概要を掲載する。
- ・ 合宿研修会として11月に諏訪の武藤工業様とセイコーエプソン様を訪問した。
- ・ インクジェット技術部会のコミュニティ拡大策の1つとして、2015年度第1回部会会合(4月)に7社11名の若手技術者に参加してもらい、部会活動等の議論に加わっていた。
- ・ 2016年度の技術研究会は10月1日(金)に発明会館ホールで開催予定である。

#### 7) 電子ペーパー/フレキシブル技術部会

- ・ 当初の電子ペーパーの狙いである、紙のように“薄く”，“軽く”，“フレキシブル”な技術や用途展開も対象として広げ、フレキシブル技術やウェアラブルまで視野に入れて、部会名称を「電子ペーパー/フレキシブル技術部会」に変更した。
- ・ 定例会議を6回開催した。
- ・ 2015年10月20日(火)、日本化学会館ホールにて、電子ペーパー/フレキシブル技術部会とデジタルファブ리케이션部会の共催の技術研究会「電子ペーパー/フレキシブル技術研究会」を開催した。一般参加者は60名と昨年の47名および一昨年の40名から増加しており、2010年の電子ペーパー国際会議の参加者135名をピークにした減少傾向によりやく歯止めがかかってきたと感じる。これは、電子ペーパー技術だけでなくフレキシブルやウェアラブル技術まで範囲を広げたことが功を奏したものと考えられる。
- ・ イメージングカフェの年末スペシャル(12/18)において、電子ペーパーの製品と技術の最新動向を発表した。
- ・ 合宿を2015年8月22日(金)～23日(土)に実施した。北陸先端科学技術大学院を訪問し、村田先生と下田先生から最近の研究内容について講演をいただいた。

#### 8) サーマル記録技術部会

- ・ 2015年は11/24に大日本印刷様の市ヶ谷を訪問し部会を実施。しかし、なかなか全員が集まることは難しく、最近では電話会議と併用した部会となっている。部会では、次回研究会の内容とともに準備分担を決めた。2月に全体像をまとめ2016年7月の開催を目指し引き続き準備を進める。次回研究会は、「サーマル技術の基礎と未来 ～微細な熱源の可能性～」をテーマとして、そこから創造される新しいサーマル記録や、微細熱源の他用途への応用等を議論する予定である。

#### 9) イメージング材料部会

- ・ 当部会は、広く画像技術を支えるイメージング材料、将来のイメージング技術につながる新材料ならびにそれらを用いたイメージングデバイス、システムに関する研究開発動向をフォローし、技術研究会を通じて当学会における材料開発研究の活性化を図ることを目的としているが、活動が滞っている。まだ休会状態を脱していない。早急に部会の刷新を図り活動の再起動に努める。解決策として当面他部会との研究会等の共同開催を目指す。

#### 10) シミュレーション技術部会

- ・ 新しいシミュレーション実習検討のため、部会を5回開催した。

- ・ ICJ2013 で開催された Workshop-3: ” トナー静電付着力の徹底討論”、2014 年の公開部会、その後、シミュレーション技術部会とトナー技術部会で継続検討を行った結果を ICAI2015 にて発表。
- ・ 昨年までのエクセルによる電子写真シミュレーションに代わり、新たな内容 (OpenFOAM によるインクジェット吐出シミュレーション) でシミュレーション実習を実施。出席者 9 名 (+途中 1 名退出)。出席者全員が最終課題 (IJ 吐出: 図参照) まで到達。アンケート結果も好評。2016 年度も継続予定。

#### 11) デジタルファブリケーション部会

- ・ NIP31/Digital Fabrication 2015 への運営参加  
2015 年 9 月 27 日 - 10 月 1 日に米国ポートランドで開催された IS&T NIP31/DF2015 にて Committee とセッション運営に参加した (General Chair: 藤井, Program Chair (Asia & Oceania): 鈴木(幸), Session Chairs: 小田, 西, 梅津, 酒井)。
- ・ 第 47 回イメージングカフェでの話題提供  
2015 年 12 月 18 日に開催されたイメージングカフェ「イメージング技術 2015 徹底討論」で 2015 年の DF 技術の話題提供を行った。  
担当: 西 眞一 (コニカミノルタ)
- ・ 2015 年度 第 3 回 日本画像学会技術研究会 (通算第 126 回)  
電子ペーパー/フレキシブル技術研究会と共催
  - ・ 開催日: 2015 年 10 月 20 日 (火)
  - ・ 会場: 化学会館ホール

#### 12) 画像感性部会

- ・ 部会を 2 回開催し、日本視覚学会とのコラボレーションに関する検討を行なった。視覚学会に打診を行なった結果、ファーストステップとして画像学会側のニーズが知りたいという返答があったため、双方の主要構成員が東京に集まる 1 月 22 日に交流会「画像技術と視覚研究の交流と発展を目指す会」を開催し、画像学会の過去の研究事例 6 件を各発表者にご紹介いただいた。参加した視覚学会員からは好意的な意見をいただき、今後も本活動を継続して行くことになった。

### **(11) 企画委員会 委員長 酒井真理 (東京大学)**

本年度はイメージングカフェの企画および運営を行った。以下に活動詳細を報告する。

#### ● イメージングカフェの企画および運営

交流空間『イメージングカフェ』は開始より 5 年を経過し、これまで東京で累計 49 回、関西で 2 回開催した (2016 年 3 月末時点)。イメージングカフェ HP、Facebook ページを独自に運用することで、学会外へも積極的な広報活動を進めている。本年度は例年同様に、夏の納涼祭スペシャルと冬の年末スペシャルを含め、10 回のイメージングカフェを開催した。夏の納涼祭スペシャルでは、高野山開創 1200 年記念として 2015 年 7 月 3 日に奉納された「想定色平成再生版曼荼羅図」におけるデジタルプリンティングと日本伝統技能の融合による文化継承事業を紹介した。第 45 回イメージングカフェでは、11 月に開催された ITMA2016 (繊維・アパレル産業関連機械・設備・技術に関する展示会で 4 年に 1 回開催される) の直前情報として、注目のインクジェット捺染を中心にデジタルテキスタイルを取り上げた。冬の年末スペシャルで

は、例年通り「イメージング技術徹底討論」と銘打って、この1年を振り返ったイメージング技術のトピックスを関連技術委員会より紹介していただき討論を行った。また、直前に開催されたITMAの報告を特別企画として行った。

本年度の『イメージングカフェ』開催要項および開催内容は以下の通りである。

- 会場 恵比寿カルフル、東工大蔵前会館（第43回、第45回、第46回、第47回）
- 参加費 会員1,000円、非会員2,000円（1ドリンク付き）
- 参加資格 会員は日本画像学会個人会員（維持会員は含まず）、その他は非会員として受け付ける
- 開催内容
 

第40回	2015年4月17日	産業用印刷市場を支えるUVインクの技術 ..... 朝武 敦（コニカミノルタ）
第41回	2015年5月22日	ビッグデータ時代の最先端モニタリング技術： リモートセンシング～地球全体から農地の一部まで～ ..... 建石 隆太郎（千葉大学）
第42回	2015年6月26日	印刷加工連の考える印刷とデザイン ～印刷業に必要な「作る力」と「伝える力」～ ..... 篠原 慶丞（篠原紙工）、北条 舞（ALL RIGHT）
第43回	2015年7月29日	デジタルプリンティングと日本伝統技能の融合による文化継承事業～開創1200年 総本山金剛峯寺（高野山）所蔵 両界大曼荼羅 想定色平成再生版プロジェクト～ .....前田 伸幸（凸版印刷） .....小島 勉（トッパングラフィックコミュニケーションズ）
第44回	2015年9月4日	産業用途に広がるレーザマーキング技術 ～ニーズと技術動向および今後の課題～ ..... 今井 慎司（パナソニックデバイス SUNX）
第45回	2015年10月9日	いま熱い！デジタルテキスタイルの世界 ～必見！ITMA2015 直前情報～ ..... 城田 衣（キヤノン）
第46回	2015年11月13日	電子写真は生き残れるのか？！～前門のIJ、後門のXX～ ..... 平倉 浩治（HiRAK Consulting）
第47回	2015年12月18日	イメージング技術 2015 徹底討論 ・松代 博之（リコー） 電子写真技術部会 ・岡田 真一（DIC） インクジェット技術部会 ・橋本 圭介（E Ink） 電子ペーパー部会 ・西 眞一（コニカミノルタ） デジファブ部会 ・城田 衣（キヤノン） 特別企画
第48回	2016年2月5日	シングルフォトン検出とは？ ～ノーベル賞を支えた光検出技術～ ..... 須山 本比呂（浜松ホトニクス）
第49回	2016年3月11日	電子写真ノイズとむきあい四半世紀 ..... 井出 収（富士ゼロックス）

- 開催結果

第 40 回から第 49 回までの合計 10 回の開催で延べ会員 144 名（前年比+16 名）、非会員 95 名（前年比+46 名）、合計 239 名（前年比+62 名）の参加者を得た（講師・企画委員を含まず）。

## (12)コンファレンス委員会 委員長 三矢輝章(リコー)

- 2014 年度後半は次のメンバー構成で活動し、2015 年 6 月 17 日,18 日,19 日に一橋記念講堂にて、4年に一度の国際学会 ICAI2015 を実施した。  
メンバー 委員長:阿部隆夫(信州大)、委員:大西勝(ミマキエンジニアリング)、小林範久(千葉大)、竹内達夫(キャノン)、山崎弘(画像学会)
- 2015 年度より、コンファレンス委員長を三矢輝章(リコー)に交代し、コンファレンス委員会に次の責務を再定義し、それに基づき活動を行った。
  - ・日本画像学会年次大会における企画総責任委員会として、多年度に渡るコンセプトの構築とコンセプトに沿った全体の統括責任を負う。
  - ・4年に1回の割合で開催される ICAI において、国際的な観点のもと、海外画像関連学術団体との連携のもとに総プログラムを構築する責任を負う。
- 2016 年 年次大会(Imaging Conference JAPAN 2016:ICJ2016) 2016 年 6 月 8 日,9 日,10 日に実施予定、運営幹事会社を富士ゼロックス殿にお願いした。  
〔実行委員長:大西康昭氏、同副委員長:中山信行氏、藤井雅彦氏〕
- ICJ2016 実行委員会の立上げに先立って、に際し、以下の変更を実施した。
  - ・ICJ2016 企画委員会を廃し、コンファレンス委員会に統合する。新制コンファレンス委員は現コンファレンス委員、本 ICJ2016 第一回企画委員会のメンバー、今年度および前年度の ICJ 副実行委員長とする。なお、前年度の ICJ 副実行委員長は本年度末をもって、任期を終了するものとする。
  - ・新制コンファレンス委員会メンバー  
委員長:三矢(リコー)  
委員:大西(ミマキ)、竹内(キャノン)、山崎(日本画像学会)、小林(千葉大学)、面谷(東海大学)、木村(富士ゼロックス)、中山(富士ゼロックス:今年度 ICJ 副実行委員長 兼任)、服部(コニカミノルタ:前年度 ICJ 副実行委員長)
  - ・ICJ の継続性を維持するため、コンファレンス委員会の下に常任実行委員を置く。常任実行委員は毎年 ICJ 実行委員会の中における係りに属する。
  - ・新制コンファレンス委員は ICJ 実行委員会のメンバーとなる。
  - ・Vision55 に基づいて策定された、ICJ の基本コンセプト「豊かな画像空間の創造を 目指す」を少なくとも数年間継続させる。この考えに基づきコンファレンス委員会がスローガン策定のベースとなる「方針」を立案し、実行委員会がスローガンとその案内文を立案する。
  - ・幹事会社は、実行委員会を組織し、コンファレンス委員会の方針に則った ICJ 全体の企画運営を遂行する。
  - ・ICJ2016 スローガン策定のベースとなる方針を「あなたの生活空間は画像でどう満たされるか」(満たされるの意味は、「満足」とする。

### (13) 事業委員会 委員長 大橋豊史(三菱化学)

- ・標準キャリア(担当:トナー技術部会)に関しては、新規標準品頒布はないがコンスタントに売れている。今年度の頒布数では N-01=54%、N-02=18%、P-01=14%、P-02=14%の比率である。
- ・テストチャート(担当:画像評価技術部会)に関しては、新規学会チャート頒布はなく、従来のテストチャートの今年度頒布数は17枚で、前年の160枚に対して約1/10と極端な落ち込みとなった。数年毎に大きく変動する傾向が続いている。
- ・2008年6月に刊行した「デジタルプリンタ技術」シリーズ4巻は売上が鈍化しているが、年間累計で約210冊が販売されたものと思われる。  
4巻の累計の実売数と市場在庫はつぎのとおりである。  
(提供:東京電機大学出版局 2015年12月現在)
  - ① 電子写真 4刷 3577部(前年+36)
  - ② 電子ペーパー 1刷 1762部(前年-12)・・・販売実績=0、12冊返本
  - ③ インクジェット 4刷 3529部(前年+126)
  - ④ ケミカルトナー 2刷 2009部(前年+62)

#### [協賛依頼]

#### ○2015年

- ・4/12~2016 2/27 色彩講座基礎編 2015(専門知識としての”色彩学”)  
“立命館大学 朱雀キャンパス”6回開催 日本色彩学会
- ・5/14-15 第27回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム(SEAD27)  
“東京工業大学 すずかけホール” 電気学会
- ・5/19-22 国際色彩学会中間大会 AIC2015 TOKYO  
“ソラシティカンファレンスセンター” AIC(国際色彩学会)、日本色彩学会
- ・6/3 Advanced Image Seminar 2015(AIS2015)  
“画像認識技術の最新動向と応用” 画像電子学会
- ・6/15-16 品質工学会 第23回研究発表大会  
“全体最適への原点回帰—マクロ視点での品質工学の実践—” 品質工学会
- ・7/3-5 ICVS2015 第23回シンポジウム(ICVS) 国際視覚学会
- ・7/15 第12回 日本写真学会光機能性材料セミナー  
“有機半導体の最先端—キャリア高移動度の追及—” 日本写真学会
- ・7/15 色材分散講座  
“分散の基礎と応用” 色材協会 関西支部
- ・7/22 2015印刷・情報記録・表示研究会基礎講座  
“基礎から学ぶエレクトロニクス材料&製膜技術” 高分子学会
- ・8/4-5 第48回塗料基礎講座 色材協会 関西支部
- ・9/24-25 第39回静電気学会全国大会 静電気学会
- ・9/25-27 日本色彩学会第46回全国大会[米沢]’15 日本色彩学会
- ・9/28 色材アドバンスセミナー2015(東京)“色材の表面科学と界面制御”  
日本色材協会
- ・11/2-5 The 8th SIGGRAPH conference and Exhibition on Computer Graphics and

#### Interactive Techniques in Asia

SIGGRAPH (Association of Computing Machinery(ACM))

- ・ 11/10 第 40 回顔料物性講座 日本色材協会
- ・ 11/13 平成 27 年度 画像保存セミナー 日本写真学会
- ・ 11/18 第 23 回カメラ技術セミナー 日本写真学会
- ・ 11/19-20 第 12 回色材 IT(インクジェットテクノロジー)講座  
“インクジェット技術 ～新たなる潮流～” 日本色材協会
- ・ 11/29-12/2 第 5 回世界工学会議(WECC2015) 日本工学会
- ・ 12/5 第 49 回光学五学会関西支部連合講演会  
“光と形の最新トピック” 日本光学会等
- ・ 12/9-11 第 22 回ディスプレイ国際ワークショップ(IDW' 15) 映像情報メディア学会
- ・ 12/17-18 第 24 回微粒化シンポジウム  
“微粒化研究の新しい挑戦” 日本液体微粒化学会
- ・ 2016/1/22 2015 印刷・情報記録・表示シンポジウム  
“IoT (Internet of Things)を支える高分子技術” 高分子学会
- ・ 2016/1/29 早稲田大学各務記念材料技術研究所 2015 年度教育プログラム  
“3D プリンターとその将来展望” 早稲田大学
- ・ 2016/2/3-5 Page2016 日本印刷技術協会(JAGAT)
- ・ 2016/3/10-11 シンポジウム「モバイル' 16」 モバイル学会
- ・ 2016/5/18-20 第 28 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム(SEAD28)  
日本機械学会
- ・ 2016/9/12-16 Printing for Fabrication (NIP32) IS&T
- ・ 2016/11/7-11 CIC 24 『Twenty-fourth Color and Imaging Conference』 IS&T

#### (14) 広報委員会 委員長 長山智男 (リコー)

- ・ 広報委員会では、会員への情報サービス提供活動として、日本画像学会のホームページ (URL : <http://www.isj-imaging.org/isj.html>) の継続的な管理運営を行った。1997 年に開設して以来、636,000 件を超えるアクセス数 (2013 年 2 月 1 日現在) となり、2015 年度単年度では 25,000 件以上の閲覧を数えた。
- ・ 学会イベント参加登録等の IT 化については、事務局および各種イベントの企画担当委員の主体的な活動により、タイムリーなイベント情報掲載と電子参加登録が浸透してきた。
- ・ 会員の個人ページの積極利用について事務局および技術委員会と継続討議を行い、会員の皆様の関心のある技術領域と技術委員会部会活動との連動ができる仕組みを構築中であり、2016 年度からの実施を計画している

#### (15) 選奨委員会 委員長 内藤裕義 (大阪府立大学)

- ・ 選奨規定に則り、学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、技術研究賞、日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞について、それぞれ選考委員会を組織して受賞候補者を厳正に選考し理事会に推薦した。

## (16) 国際交流委員会 委員長 半那純一 (東京工業大学)

- ・ 6月に開催した International Conference on Advanced Imaging (1st ICAI) に向け、韓国、中国、タイを含む周辺諸国への参加勧誘を行い、開催に協力した。
- ・ 本学会と米国 画像学会共催になる International Conference on Digital Fabrication and Digital Printing (NIP31、2015年9月27日～10月1日、米国 Oregon州 Portland) の開催、および、本会議を通じ IS&T と本会の交流に協力した。

## (17) 関西委員会 委員長 狩野 篤 (京セラドキュメントソリューションズ株式会社)

### 関西シンポジウム 2015

実行委員長：山本雅志 副実行委員長：加藤智久

2015年5月15日(金)、ハートピア京都(京都 丸太町)にて、2015年度関西シンポジウムを開催しました。「プリンティング技術のデリバティブ ～材料進化がもたらす応用事例～」というテーマのもと、電子写真の材料技術に焦点を置き、今後の進化の可能性についてディスカッションを行い、議論を深めました。

東京大学の酒井先生から、デジタルファブリケーションの世界に関する基調講演をしていただき、デジファブの定義からインクジェットを中心とした技術やデバイスの進歩を振り返り、今後の方向性についてもご紹介いただきました。また、ナノセルロースを応用した透明な紙の研究を大阪大学の古賀先生よりご講演いただき、加工を施すことで導電性を付与する技術、静電容量を飛躍的に高める技術についてもご紹介いただきました。また、各社の取り組みとして、銀ナノインクの研究、銀ナノインクのビジネス展開、ブラックライトでRGBを発光する機能性インクを用いた印刷ビジネス、電子写真方式による捺染システム開発についてのご講演をいただきました。

パネルディスカッションではご講演内容に関する質問などでさらに掘り下げ、新規ビジネスを始める際の重要ポイントに関する各社の考えについて意見交換を行うことができました。シニアからお客様へデモを見せてニーズを引き出すことの重要さなど、有意義な議論がなされました。(参加者 32名：会員 28名、非会員 4名)

#### **【技術発表テーマと講師の皆様】**

- ・ デジタルファブリケーション：材料がカギを握る生産革命 酒井真理 (東京大学)
- ・ 紙ならではのフレキシブルデバイス 古賀大尚 (大阪大学)
- ・ バンドー化学の導電性インク/ペースト化技術 外村卓也 (バンドー化学株式会社)
- ・ 銀ナノインクのビジネス応用から見えるインクジェット技術展開の可能性 杉本雅明 (AgIC 株式会社)
- ・ 「あっ！」と驚く機能性色素プリント 浅尾孝司 (株式会社SO-KEN)
- ・ 電子写真方式による昇華転写捺染システムの開発 芳野康洋 (三菱製紙株式会社)

#### **【パネルディスカッション】**

座長：加藤智久 (三洋化成工業株式会社) パネラー：講演者のみなさん  
「プリンティング技術のデリバティブ」 ～材料進化がもたらす応用事例～

## 「Imaging Conference JAPAN 2015 Fall Meeting」開催報告（関西委員会）

実行委員長：金本成一

2015年11月19日(木)・20日(金)の両日に京都工芸繊維大学(京都 松ヶ崎)にて、関西委員会の企画・運営による Imaging Conference Japan2015FallMeeting を開催しました。本年度は、画像関連学会連合会の第2回目の合同研究討論会として開催し、初日午前には、画像関連学会連合会による「3D デジタルイメージングの仮想空間と実空間」というテーマで、今後ますます仮想空間と実空間のボーダーが無くなっていくことが実感として感じられる、非常に興味深いディスカッションがなされました。午後は4画像関連学会合同のポスターセッションを行い、ポスター全47件(内画像学会10件)と多くの報告があり、非常に活発な議論がなされました。夕刻には基調講演として、立命館大学の北岡明佳先生による「画像と錯視」テーマで講演をいただきました。単に錯視の説明ではなく、理論的にベース色、面積、色、透過率、など順を追ってのお話であり、わかりやすい中にも驚きをもって画像を見せていただくことができました。

2日目は、4画像関連学会による口頭発表58件(内画像学会14件)の報告が、4会場に分かれて活発に行われました。画像学会では、口頭発表の中で「研究奨励賞」、「技術賞」、「KM 研究奨励賞」の発表も行いました。昼休みには、昨年より行っている計測器展示機器メーカーによるお弁当付きの「ランチョンセミナー」を開催し、参加者に好評を得ていました。トータルの参加人数は、61名と低調ではありましたが、アンケートの結果を見る限り、非常に満足度が高いと言える結果で終えることができました。

関西での秋のイベントとしては今年初めて技術講習会を取りやめ、ICJを4画像学会合同大会として2日間開催しました。したがって、ポスター、オーラルともにボリュームがあり、特にポスターは活気があり盛り上がった報告会であったと思います。一方、画像学会としては集客に苦戦し、赤字運営となってしまったことが大きな反省点です。4学会合同大会としての2日開催によるメリットが出せず、これはポスターとオーラルが2日に分散したため1日参加を予定している参加者にとっては逆にデメリットになった可能性があります。来期に向かってもっといろいろなアイデアを取り入れ、集客アップの施策を考えてまいります。尚、今回の受賞講演は以下の報告です。

### ○第28回論文賞

1. High-Resolution Measurement of Electrostatic Latent Image Formed on Photoconductor Using Electron Beam Probe 須原浩之氏 (株)リコー

2. ベイズ統計によるマルチバンドスキャン画像の波長・空間領域の同時復元 井出亜里氏 京都大学

### ○第25回技術賞

1. インクジェットデジタル印刷機 JetPress720 シリーズの開発 辰己節次氏、他3名 富士フィルム(株)

2. ツイストボール型電子ペーパーの商品化 小林弘典氏、他2名 大日本印刷(株)

3. 高信頼ロングライフゼログラフィドラムユニットの開発 新井和彦氏 富士ゼロックス(株)

### ○第9回日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研修奨励賞

有機・無機ハイブリッドにおける相分離構造を有する高分子微粒子の電子ペーパーへの応用 藪博氏 東北大学

プログラムは本稿後半に記載。

## (18) 財務委員会報告 委員長 浅野晋一 (王子ホールディングス)

- ・2014 年度収支決算を行った。会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、理事会の決議を経て総会にて2014 年度決算の承認を得た。
- ・2015 年度予算は、次のような方針で立案し、理事会の承認を得た。  
正会員費収入は、2014年並とする。通常収支として国際会議関係収入分を除いて収支均衡を目指す。全体としては黒字予算（125万円）。  
I C A I 予算を国際会議関係収支/支出の費目として取り組む（会計の管理責任が画像学会にあるため全予算を組み込み）。  
国際会議準備基金（特定資産）積み立てを新規に開始（積立金50万）。  
新規出版を見直し予算化を行う。
- ・1月末時点での収支見込みは、2014年度に対し、講習会の収支の改善があったものの、会員会費収入、試験標準品、研討・研究会参加費が減収となった。  
当初予算に対しては、事業費支出（講習会開催費、試験標準品作製費、国際学会準備費）の抑制もあり約65万円の黒字の見込みである。
- ・会計処理規程に則って2014年度半期決算を行い、会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、理事会に報告し承認を得た。

## (19) 特別講演会

2015年3月12日 評議員会の後、東京藝術大学 社会連携センター/アートイノベーションセンター 平諭一郎教授による「感動を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション～アナログとデジタルのハイブリッド技術～」の特別講演会を開催した。

## (20) 技術研究会

●2015年9月11日(金) 発明会館ホール(東京都港区虎ノ門2-9-14)にてインクジェット技術部会の2015年度第1回日本画像学会技術研究会(通算第124回)を開催した(参加者115名:会員78名,非会員36名,学生1名)。

テーマ『インクジェットヘッド、

これまでの5年,これからの5年』- 多様化に向かって新たな課題に挑むインクジェット - 講演テーマ,講演者は以下のとおり。

1. この5年の市場変化とヘッドの対応 藤井 雅彦 (インクジェット技術部会)
2. 高速,高画質,スケーラブルを可能にする次世代インクジェットテクノロジー” PrecisionCore” 中尾 元 (セイコーエプソン)
3. サーマルインクジェットヘッドの現状と進化 中島 一浩 (キヤノン)
4. 高速化と産業用途に向けたリコーのインクジェットヘッド技術 森 尚子 (リコー)
5. 広がる産業用インクジェット市場とコニカミノルタのインクジェット技術 石橋 大輔 (コニカミノルタ)

6. アプリケーションに向けて進化する各社ヘッド技術(ピエゾ編) 酒井 真理 (東京大学)  
 7. 特許, 文献から見る新規ヘッド方式 藤井 雅彦 (富士ゼロックス)  
 座談会「実はここが知りたかったインクジェット」

●2015年10月9日(金)日本印刷会館(東京都中央区新富)において、トナー技術部会企画による2015年度第2回日本画像学会技術研究会(通算第125回)を開催した(参加者は88名:講演者・委員除く)。研究会テーマ『付加価値トナー関連技術、及び、最新トナー市場とトナー特性』、講演テーマと講演者は以下の通りである。

- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 金・銀メタリックトナー             | 二宮 正伸 (富士ゼロックス) |
| 2. 塗料・塗膜として使える金属光沢を持つ非金属材料 | 星野 勝義 (千葉大学)    |
| 3. 質感と感性の認知科学              | 本吉 勇 (東京大学)     |
| 4. 付加価値トナーも含む最近のトナー市場状況    | 山本 幸男 (データサプライ) |
| 5. 最近のトナーの各種特性比較           | 多田 達也 (トナー技術部会) |
| 6. 酸化チタン系外添剤               | 福丸 雅也 (テイカ)     |
| 7. 新たな高性能外添剤-その特徴と応用-      | 内藤 直弘 (日本アエロジル) |

●2015年10月20日(火),日本化学会館ホールにて,電子ペーパー/フレキシブル技術部会とデジタルファブリケーション部会の共催の技術研究会「電子ペーパー/フレキシブル技術研究会」(通算第126回)を開催した。参加者は,86名だった(正会員12名,維持会員9名,協賛学会からの参加者9名(SID日本支部8名,映像情報1名,画像関連連合会の他学会からは参加なし),非会員29名,学生1名,講演者7名,デモ展示4名,部会委員15名)。昨年に引き続きSID日本支部に協賛していただき,さらに今年から映像情報メディア学会の協賛も得たことが参加者増加に効果が大きく,ディスプレイ関連の技術者が本研究会に大いに興味を持っていることがわかった。非会員が多いことも特徴である。

テーマ『電子ペーパーとフレキシブル技術』

【講演】

- |  |   |
|--|---|
| 「電気泳動電子ペーパーの最新技術動向」                      | E ink 橋本 圭介   |
| 「次世代照明に向けたフレキシブル有機ELデバイスの技術開発」           | コニカミノルタ 遠西 正数                                       |
| 「電子ペーパーを用いたリモコン“HUIS REMOTE CONTROLLER”」 | ソニー 八木 隆典   |
| 「伸縮自在な新規熱硬化性ポリマーを用いたストレッチャブル電子ペーパー」      | パナソニック 阿部 孝寿, 澤田 知昭, 吉岡 慎悟, 千葉大学 北村 孝司, 中村 卓, 小林 範久 |
| 「教育現場に支持されるデジタル教科書の特徴とその展望」              | 日本デジタル教科書学会 久富 望                                    |
| 「無溶媒乾式印刷によるフレキシブル有機TFTの作製」               | 千葉大学 酒井 正俊  |
| 「プリンテッドエレクトロニクスとウェアラブルデバイス」              | 産業総合研究所 吉田 学  |

【展示】

E-ink, コニカミノルタ, ソニー, パナソニック, 丸文の5社

**(21) シンポジウム**

●2015年12月4日(金)発明会館(東京都港区虎ノ門2-9-14)にて技術委員会電子写真技術部会企画・運営によるシンポジウムを開催した。

【題目】「デジタル印刷の更なる発展へ向けて」～そのための新たな市場と技術とは?～

【参加者】102名(会員79名,非会員4名,学生1名,講師7名,委員11名)

【講演内容】

1	電子写真技術の 2015 年とこれから ～日本・欧米～	電子写真技術部会	松代 博之
2	アジア地域の電子写真製品市場と課題 ～中国・インド市場を中心に～	データ・サプライ	山本 幸男
3	A3カラー複合機DocuCentre SC2020 ～中国・アジア新興国戦略商品～	富士ゼロックス	片桐 秀男
4	Pro C9110/C9100の開発 ～用紙対応力と画像安定性を向上させる技術～	リコー	比嘉 拓磨
5	bizhub PRESS C1100 ～生産性、信頼性の向上技術～	コニカミノルタ	関根 哲
6	大判インクジェットプリンタを用いた文化財の高精度複製技術 ～綴プロジェクト～	キヤノン	蒔田 剛
7	京都伝統文書復元プロジェクトとそれらを支えるデジタル印刷技術	富士ゼロックス	木村 秀貴

- 関西シンポジウムについては（17）関西委員会の項に記載

(22) 技術講習会開催報告 事業委員長 大橋 豊史 (三菱化学)

第79回技術講習会

- ・2015年7月16日(木)、17日(金)の両日、東京工業大学すずかけ台キャンパス内すずかけホール（横浜市緑区）にて、第79回技術講習会を開催した。会場がこれまでの「学術総合センター」から「すずかけホール」に代わり、技術講習会としては初めての会場となったが、ICJ等での実績もあり、運営面での問題もなく実施した。
- ・79回技術講習会はサブタイトルを「R&Dの最前線から学ぶ画像技術の基礎と将来展望」とし、「基礎教育講座」を継続、基礎重視に趣をおいた。昨年同様、電子写真分野とインクジェット分野を2会場に分け、それぞれで入門・各論講習を実施。
- ・有料参加者数は157名〔正会員・維持会員：120名 非会員：36名 学生：1名〕、昨年より37名増と回復基調、総参加企業・団体数も7社増〔第79回：72社 第77回：65社〕と基礎教育／若手育成の場として幅広く支持されている。また、首都圏を中心に北海道・九州を除く全国各地から参加をいただいていることも技術講習会の特徴といえる〔首都圏：95名 中部：16名 阪神：25名 信越・北陸：11名 東北：4名 大阪以西：6名〕。
- ・シミュレーションは今年度より内容を刷新し、「オープンソース OpenFOAMを用いたシミュレーション実習」として「インク吐出シミュレーション」を実施、参加者9名と好評。同内容で継続予定。

- ・展示会社数は5社 [昨年は6社]、トレックジャパン株式会社様、コニカミノルタ株式会社様、株式会社フォトロン様の常連3社と、昨年出展頂いた日立工機株式会社様、株式会社ケー・エヌ・エフ・ジャパン様の2社、会場の関係で現状では5社が限界、増加に向けた別場所での対応が必要。

アンケート結果を以下に報告します。参加者の傾向を把握し、参加してよかったと思われる講習会とします。

- ◆例年通り20代の割合高い [45%] 傾向は変わらないが、30代が昨年より更に増え38%まで増加。

若手の人材教育以外に、中堅の方が復習や知識の深化に講習会を活用してくれている。

- ◆参加目的は例年通り『基礎知識の習得』が大半
- ◆経験年数も例年通り3年未満の方が半数程度だが、減り続けていた5～10年 [22%] が大きく増加。

例年よりも経験豊富な人 [経験5年以上 第79回:33% 第77回:26% 第75回:22%] が多く参加し、幅広い経験層の方が利用してくれている。

- ◆担当業務は例年通り『電子写真』が最多の55%。昨年に続きIJ技術部会の方々の協力の下、IJ関連講義を充実した効果で、『IJ』は過去2番目に多く29% [過去最多は去年の第77回]。

- ◆専門分野は例年通り化学が半数 [50%] で、その他分野の順位も例年通りで、物理、機械、電気・電子、画像工学の順。その他分野は、土木、経済、生物、制御工学、商社営業と多種多様。

- ◆展示会については非常に役に立った&役に立ったが第57回の開始以来最多 [39%] だったが、少し物足りないも多め [16%]。参加企業を増やし、充実を図りたいが、会場レイアウト等の工夫が必要。

- ◆講習会を知った機会は例年通り7割は紹介だが、HPで知り、参加してくれた人が例年の2倍 [16%]。検索で引っかかりやすいキーワードを開催案内に盛り込み、学会HPへ誘導するのでも参加者を確保するための一つの手段になりそう。

- ・2016年度も引き続き基礎知識習得に重きをおき、日本画像学会技術委員会との連携をさらに密にし、若手技術者の専門技術習得の場となるような内容、企画を検討していく。
- ・次回第80回技術講習会は2016年6月23日(木)、24日(金)に本年と同じく東工大すずかけホールにて開催予定。

・1日目 第1会場 (多目的ホール) <電子写真:入門講習・各論>

1. 電子写真プロセスの基本原理とプロセス設計 服部 好弘様 (コニカミノルタ)
2. 電子写真用現像剤の基礎 太田 英樹様 (京セラドキュメントソリューションズ)
3. 電子写真関連展示会社様からのショートプレゼンテーション 各社展示会社様
4. 電子写真感光体の基礎 長山 智男様 (リコー)  
—動作原理と各層の機能の解説および開発動向について—

- 5. トナー帯電量変動要因と高画質現像技術 峯岸 なつ子様 (コニカミノルタ)
- 6. 電子写真プロセスの基本と技術動 栗田 篤実様 (富士ゼロックス)

・1日目 第2会場 (集会室1) 《インクジェット：入門講習・各論》

- 7. インクジェットの方式の分類と特徴、今後の課題と対応 藤井 雅彦様 (富士ゼロックス)
- 8. インクジェットシステム技術 江口 裕俊様 (リコー)
- 9. インクジェットヘッド技術 中島 一浩様 (キヤノン)
- 10. インクジェット関連展示会社様からのショートプレゼンテーション 各社展示会社様
- 11. インク/メディア技術 岡田 真一様 (DIC)
- 12. インクジェット：画像形成技術 角谷 繁明様 (セイコーエプソン)
- 13. インクジェットの今後の展開 ～インクジェットの産業・工業応用～ 酒井 真理様 (東京大学)

・2日目 第1会場 (多目的ホール) 《電子写真に関する技術講習・各論/基礎教育講座》

- 14. 視覚特性と画質評価 一谷 修司様 (コニカミノルタ)
- 15. 摩擦の科学 松川 宏様 (青山学院大学)
- 16. トナー用外添剤の機能と応用 天野 裕貴様 (日本アエロジル)
- 17. 化学工学の基礎 高橋 伸英様 (信州大学)  
～移動現象論の基礎と次元解析によるスケールアップ～
- 18. 排出後処理技術概論 徳間 直人様 (キヤノン)

・2日目 第2会場 (集会室1) 《インクジェットに関する技術講習・各論/基礎教育講座》

- 19. サーマル記録技術の基礎とさらなる発展に向けて 山本 忠司様 (ローム)
- 20. 基礎から学ぶ紙の科学 江前 敏晴様 (筑波大学)
- 21. 3Dプリンタ概論 藤井 雅彦様 (富士ゼロックス)
- 22. 界面化学入門 近藤 行成様 (東京理科大学)
- 23. オフィス向けインクジェット 奥田 貞直様 (理想科学工業)

・2日目 第3会場 (集会室2) 《シミュレーション実演実習》

- 24. イントロダクション 川本 広行様 (早稲田大学)
- 25. OpenFOAM とは 村社 純一様 (富士通研究所)
- 26. 実習1：毛細管シミュレーション (2次元) 加川 哲哉様 (コニカミノルタ)
- 27. 実習2：毛細管シミュレーション (軸対称2次元) 前田 昌孝様 (ブラザー工業)
- 28. 実習3：インクジェット吐出シミュレーション 長谷部 恵様 (富士ゼロックス)

技術講習会実行委員会 委員長： 和田 光央 (三菱化学)

委員： 黒須 久雄 (リコー)、大柴 知美 (コニカミノルタ)、萬道 律雄 (王子製紙)、  
加賀田 尚義 (セイコーエプソン)、吉田 稔 (東芝テック)、笠間 稔 (富士ゼロックス)、

稲葉 繁（富士ゼロックス）、渡辺 督（キヤノン）、茂村 芳裕（キヤノン）山崎 弘（元コニカミノルタ）

事業委員長：大橋 豊史（三菱化学） 事業委員：吉田 稔（東芝テック） 上原 康博（富士ゼロックス）

電子写真シミュレーション実演講習は、シミュレーション技術部会（門永主査：リコー）との共同開催

## (23) 2015年度 学会概要、役員名簿、各委員会名簿

### 学会概要

創立年月 1958年6月30日  
事務局 東京都中野区本町2丁目9番地5号(東京工芸大学内)  
会員数 個人会員 946名 (2015年度入会者数 95名、退会者数 63名)  
維持会員 66社 (2015年度入会数 1社、退会数 3社) 2016年1月末現在

### 2015年度学会役員

#### ◎会長

半那純一 (東京工業大学)

#### ◎副会長

面谷 信 (東海大学) 竹内達夫 (キヤノン)

#### ◎理事

青木彦治 (ブラザー工業) 佐藤利文 (東京工芸大学)  
浅野晋一 (王子ホールディングス) 佐野隆之 (巴川製紙所)  
梅津信二郎 (早稲田大学) 辰巳節次 (富士フイルム)  
石黒秀明 (三菱製紙) 内藤裕義 (大阪府立大学)  
大西 勝 (ミマキエンジニアリング) 中山信行 (富士ゼロックス)  
大橋豊史 (三菱化学) 長山智男 (リコー)  
北久保 茂 (日本工業大学) 西野俊夫 (シャープ)  
小島洋樹 (キヤノンファインテック) 橋本清文 (コニカミノルタ)  
小林範久 (千葉大学) 服部好弘 (コニカミノルタ)  
近藤浩人 (京セラ・キュメントソリューションズ) 吉田 稔 (東芝テック)  
酒井真理 (東京大学)

#### ◎監事

中島一浩 (キヤノン)  
藤井雅彦 (富士ゼロックス)

#### ◎幹事

狩野 篤 (京セラ・キュメントソリューションズ)  
三矢輝章 (リコー)

2016年1月末現在

#### ◎顧問

窪田 啓次郎 (成蹊大学) 高橋恭介 (東海大学) 平倉浩治 (HIRAK)  
北村孝司 (千葉大学) 高橋 通 (元キヤノン) 横山正明 (大阪大学)  
小門 宏 (東京工業大学) 田嶋紀雄 (元コニカミノルタ)  
坂田俊文 (東海大学) 中山喜萬 (大阪大学)

2016年1月末現在

#### ◎評議員

(社名五十音順)

秋山 悟 (アイメックス) 片桐 譲 (山東華菱電子) 江間秋彦 (日清製粉グループ)  
森下浩延 (出光興産) 山本 治男 (シャープ) 石崎雅也 (日本製紙)  
山田公哉 (岩崎通信機) 灘原壮一 (SCREENホールディングス) 黒川 尚 (日本ゼオン)  
田口哲也 (エステー産業) 田島 啓 (住友ゴム工業) 小林弘道 (パウダーテック)  
寺尾知之 (王子ホールディングス) 高橋 潤 (住友理工) 見方康範 (バンドー化学)  
橋本美浩 (沖データ) 金谷美春 (セイコーエプソン) 上田彦二 (藤倉化成)  
登 正治 (沖デジタルイメージング) 秋田寛哉 (綜研化学) 山内和海 (富士ゼロックス)  
山手 修 (オリエント化学工業) 坂井尚之 (大日精化工業) 小野 博 (富士ゼロックスマニュファクチャリング)  
永澤敦志 (花王) 武衛弘之 (DIC) 寺崎成史 (富士電機)  
井上秀明 (カシオ計算機) 研究開発センター(大日本印刷) 依田 章 (富士フイルム)  
太田譲二 (桂川電機) 小林 透 (高砂香料工業) 駒崎岳夫 (富士フイルムイメージングシステムズ)  
小林克彰 (キヤノン) 大藤正浩 (中央合成化学) 円道博毅 (富士薬品工業)  
石永博之 (キヤノンファインテック) 藤尾 昇 (東京機械製作所) 足立京史 (扶桑化学工業)  
浅井 保 (京セラ) 笠井利博 (東芝テック) 各務克巳 (ブラザー工業)

巖島圭司	(京セラ'キュメントソリューションズ')	寶來 茂	(戸田工業)	笠原 郁	(保土ヶ谷化学工業)
中野 勇	((独)国立印刷局研究所)	佐藤伸一	(東洋インキ)	木上 嘉博	(三菱化学)
朝武 敦	(コニカミノルタ)	稲垣 潤	(東レエンジニアリング)	小池直正	(三菱製紙)
松野尚司	(コニカミノルタ)	事務機器審査長 (特許庁)		大西 勝	(ミマキエンジニアリング)
浅井真吾	(コニカミノルタ)	山口浩孝	(凸版印刷)	並木 剛	(武藤工業)
風見 豊	(サカタインクス)	越村 淳	(巴川製紙所)	西田昭憲	(村田機械)
佐藤昌宏	(サムスン日本研究所)	上原利夫	(トレック・ジャパン)	鈴木 一	(山梨電子工業)
加藤智久	(三洋化成工業)	田中章裕	(内外カーボンインキ)	村山 久夫	(リコー)

(平成28年1月末現在の登録名簿にて記載)

### ◎編集委員会

委員長		副委員長		副委員長	
中山信行	(富士ゼロックス)	美才治隆	(リコー)	龍田岳一	(富士フイルム)
編集幹事		編集副幹事			
中村一希	(千葉大学)	鈴木弘治	(元リコー)		
委員					
秋山勇治	(キヤノン)	黒沢俊晴	(元松下電器)	長山智男	(リコー)
池田光弘	(三菱製紙)	高橋正樹	(東芝テック)	西野俊夫	(シャープ)
岩田 基	(大阪府立大学)	竹内達夫	(キヤノン)	前田秀一	(東海大学)
梅津信二郎	(早稲田大学)	堤 眞洋	(京セラ'キュメントソリューションズ')	水野知章	(富士フイルム)
北久保 茂	(日本工業大学)	朝武 敦	(コニカミノルタ)	山崎 弘	(元コニカミノルタ)
木村正利	(富士ゼロックス)	内藤裕義	(大阪府立大学)		

### ◎技術委員会

委員長		副委員長	
面谷 信	(東海大学)	木村正利	(富士ゼロックス)

2016年1月末現在

### ○画像評価技術部会

主査			
伊藤哲也	(ビジネス機械・情報システム産業協会)		
委員			
一谷修司	(コニカミノルタ)	駒崎岳夫	(富士フイルムイメージングシステムズ)
井出 収	(富士ゼロックス)	斎藤 恵	(キヤノン)
		曾根拓郎	(リコー)
		山田英治	(富士フイルムイメージングプロテック)

○電子写真技術部会

主 査

永瀬幸雄 (キヤノン)

委 員

笠井利博 (元東芝テック)	服部好弘 (コニカミノルタ)	校條 健 (キヤノン)
小森智裕 (高性能駆動装置開発)	藤井章照 (三菱化学)	渡辺靖晃 (富士ゼロックス)
島田知幸 (リコー)	古川利郎 (ブラザー)	渡辺 猛 (東芝テック)
中村博史 (富士ゼロックス)	松代博之 (リコー)	

○トナー技術部会

主 査

多田達也 (キヤノン)

委 員

上原利夫 (トレック・ジャパン)	杉浦英樹 (リコー)	星野坦之 (東京電機大学)
太田英樹 (京セラ'キュメントソリューションズ')	二宮正伸 (富士ゼロックス)	
久保貴史 (花王)	原田大輔 (クラリアント・ジャパン)	
小林弘道 (パウダーテック)	星野勝義 (千葉大学)	

○画像処理技術部会

主 査

松木 真 (元NTTクオリス)

委 員

阿部淑人 (新潟県工業技術総合研究所)	角谷繁明 (セイコーエプソン)	蒔田 剛 (キヤノン)
石井 昭 (富士ゼロックス)	小寺宏暉 (小寺イメージング研究室)	
大久保 宏美 (リコー)	関沢秀和 (画像電子学会)	

○画像技術用語部会

主 査

北久保茂 (日本工業大学)

委 員

五十嵐 明 (元富士フイルム)	多田達也 (キヤノン)	星野坦之 (東京電機大学)
酒井真理 (東京大学)	西村克彦 (クロスマイنز)	堀田吉彦 (リコー)
坂谷一臣 (コニカミノルタ)	野田明彦 (富士ゼロックス)	谷中一寿 (神奈川工科大学)
正道寺 勉 (日本工業大学)	藤井雅彦 (富士ゼロックス)	

○インクジェット技術部会

主 査

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

委 員

江口裕俊 (リコー)	酒井真理 (東京大学)	中島一浩 (キヤノン)
岡田真一 (DIC)	高田雅之 (ブラザー工業)	名越応昇 (三菱製紙)
奥田貞直 (理想科学工業)	竹本清彦 (個人)	
木村里至 (セイコーエプソン)	朝武 敦 (コニカミノルタ)	

○電子ペーパー／フレキシブル部会

主 査

堀田吉彦 (リコー)

アドバイザー

北村孝司 (千葉大学)

委 員

雨宮 功 (東芝)

面谷 信 (東海大学)

小林範久 (千葉大学)

佐野隆之 (巴川製紙所)

鈴木 明 (千葉大学)

都甲康夫 (スタンレー電気)

橋本圭介 (E Ink)

前田秀一 (東海大学)

森川 尚 (富士ゼロックス)

八代 徹 (リコー)

吉田 学 (産業技術総合研究所)

○サーマル記録技術部会

主 査

寺尾博年 (アルプス電気)

委 員

五十嵐 明 (元富士フイルム)

北村 繁寛 (大日本印刷)

黒田 浩一郎 (大日本印刷)

寺嶋尚久 (富士フイルム)

藤井豊子 (ソニー)

眞島 修 (マジマ研究所)

山本忠司 (ローム)

渡邊和宏 (京セラ)

○イメージング材料部会

主 査

横山正明 (大阪大学)

委 員

岡野光俊 (東京工芸大学)

内藤裕義 (大阪府立大学)

小林範久 (千葉大学)

長山智男 (リコー)

半那純一 (東京工業大学)

星野勝義 (千葉大学)

○シミュレーション技術部会

主 査

門永雅史 (リコー)

委 員

伊藤朋之 (富士ゼロックス)

石田英樹 (京セラドキュメントソリューションズ)

石川博幸 (ブラザー工業)

加川哲哉 (コニカミノルタ)

川本広行 (早稲田大学)

田村和也 (富士ゼロックス)

中山信行 (富士ゼロックス)

仲野正雄 (キヤノン)

長谷部 恵 (富士ゼロックス)

平林 純 (キヤノン)

村社純一 (富士通研究所)

○デジタルファブリケーション部会

主 査

酒井真理 (東京大学)

委員

梅津信二郎 (早稲田大学)

小田正明 (JAPER)

鈴木 明 (千葉大学)

鈴木幸栄 (リコー)

染谷隆夫 (東京大学)

西 眞一 (コニカミノルタ)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

○画像感性部会

主 査

鎗谷賢治 (リコー)

委員

五十嵐 明 (元富士フイルム)

上田 昌史 (ブラザー工業)

北久保 茂 (日本工業大学)

木村正利 (元富士ゼロックス)

竹内達夫 (キヤノン)

多田達也 (キヤノン)

田中 一徳 (京セラドキュメントソリューションズ)

服部好弘 (コニカミノルタ)

松木 眞 (元NTTクオリス)

宮田美都子 (京セラドキュメントソリューションズ)

横山正明 (大阪大学)

◎コンファレンス委員会

委員長

三矢輝章 (リコー)

委員

大西 勝 (ミマキエンジニアリング) 小林範久 (千葉大学) 服部好弘 (コニカミノルタ)  
面谷 信 (東海大学) 竹内達夫 (キヤノン) 山崎 弘 (日本画像学会)  
木村正利 (富士ゼロックス) 中山信行 (富士ゼロックス)

◎事業委員会

委員長

大橋豊史 (三菱化学)

委員

吉田稔 (東芝テック)  
上原康博 (富士ゼロックス)

学会標準品部会

画像評価技術部会(伊藤主査)およびトナー技術部会(多田主査)と連携

講習会部会

シミュレーション技術部会(門永主査)、インクジェット技術部会(藤井主査)と連携

講習会実行委員長 和田光ヲ(三菱化学)

講習会実行委員

稲葉 繁 (富士ゼロックス) 黒須久雄 (リコー) 山崎 弘 (元コニカミノルタ)  
大柴 知美 (コニカミノルタ) 茂村芳裕 (キヤノン) 渡辺 督 (キヤノン)  
笠間 稔 (富士ゼロックス) 萬道律雄 (王子ホールディングス)  
加賀田 尚義 (セイコーエプソン) 吉田 稔 (東芝テック)

◎運営委員会

委員長

竹内達夫 (キヤノン)

副委員長

橋本 清文 (コニカミノルタ)

副委員長

小島洋樹 (キヤノンファインテック)

委員

青木彦治 (ブラザー工業) 北久保 茂 (日本工業大学) 長山 智男 (リコー)  
大橋豊史 (三菱化学) 近藤 浩人 (京セラ'キュムトソリューションズ') 半那 純一 (東京工業大学)  
面谷 信 (東海大学) 中山信行 (富士ゼロックス) 山崎 弘 (学会事務局長)

◎関西委員会

委員長

狩野 篤 (京セラ'キュムトソリューションズ')

委員

足立克己 (シャープ) 荘所義弘 (村田機械) 山本雅志 (リコー)  
石黒秀明 (三菱製紙) 内藤裕義 (大阪府立大学)  
奥田勝己 (京セラ) 長江 偉 (三菱電機) オブザーバー  
岡崎貴彦 (バンドー化学) 夏原敏哉 (コニカミノルタ) 北岡義隆 (パナソニック)  
加藤智久 (三洋化成工業) 松坂修二 (京都大学) 中山喜萬 (大阪大学)  
金本成一 (ブラザー工業) 水畑浩司 (花王)

◎選奨委員会

委員長

内藤裕義 (大阪府立大学)

委員

浅野晋一 (王子ホールディングス)	狩野 篤 (京セラドキュメントソリューションズ)	長山智男 (リコー)
大橋豊史 (三菱化学)	酒井真理 (東京大学)	半那純一 (東京工業大学)
面谷 信 (東海大学)	竹内達夫 (キヤノン)	三矢輝章 (リコー)
金本成一 (ブラザー工業)	中山信行 (富士ゼロックス)	

◎財務委員会

委員長

浅野晋一 (王子ホールディングス)

委員

辰巳節次 (富士フイルム)	服部好弘 (コニカミノルタ)	吉田稔 (東芝テック)
---------------	----------------	-------------

◎国際交流委員会

委員長

半那純一 (東京工業大学)

委員

岡 建樹 (コニカミノルタ)	竹内 学 (ユーテック)	星野坦之 (東京電機大学)
北村孝司 (千葉大学)	中山喜萬 (大阪大学)	

◎広報委員会

委員長

長山智男 (リコー)

副委員長

佐藤利文 (東京工芸大学)

委員

木村正利 (富士ゼロックス)	中島一浩 (キヤノン)	渡辺靖晃 (富士ゼロックス)
内藤裕義 (大阪府立大学)	服部好弘 (コニカミノルタ)	

◎企画委員会

委員長

酒井真理 (東京大学)

委員

石井 昭 (富士ゼロックス)	中島一浩 (キヤノン)	森下浩延 (出光興産)
狩野 篤 (京セラドキュメントソリューションズ)	服部好弘 (コニカミノルタ)	
名越応昇 (三菱製紙)	堀田吉彦 (リコー)	

